

第47回 国頭地区中学校夏季総合剣道競技大会要項

- 主催 国頭地区中学校体育連盟
- 共催 沖縄県教育委員会 国頭地区 PTA 連合会 国頭地区市町村教育委員会
- 期日 令和2年8月1日(土) 9:30 監督会
- 会場 名護市立東江中学校体育館
- 大会運営責任者 地区中体連剣道専門部
◎松田龍太郎(東江) ○屋比久健太郎(屋部) ○野原さおり(金武)
○金城 義章(久志)
- 競技形式 ○団体戦 男女トーナメント戦又はリーグ戦
○個人戦 男女トーナメント戦
- 参加人員 ○団体戦: 男女とも選手5名 補員3名 マネージャー1名 監督1名とする。団体戦は、3名以上いればチームとして成立する。
欠員が1名の場合は、次鋒を、欠員が2名の場合は次鋒と副将をあける。
○選手の引率、監督は当該校の教職員とする。教職員以外のコーチについては、学校長の認めたもので地区に登録されたものとする。(男女兼任可)
○団体戦のオーダー提出後の選手変更は審判主任のもと行う。
- 競技規則 ○令和2年度全日本剣道連盟試合規則及び審判規則に準じる。
また、監督会申し合わせ事項(監督会で確認)によって行う。
- 競技方法 ○試合時間は、団体、個人とも3分間とする。ただし、団体戦においては、2分間の延長を1回とし、時間内に勝敗が決しない場合は、引き分けとする。ただし、団体戦の勝敗が決定している場合は、延長を行わず引き分けとする。個人戦においては、時間を刻まず勝敗の決するまで延長を行う。
○竹刀の長さは、男女とも3尺7寸(114センチ)以内、
・重さは男子**440**グラム以上、女子は400グラム以上とする。
・剣先の太さは**男子25mm、女子24mm以上**とする。
・先皮の長さは**50mm以上**とする。
○名札は、学校名・氏名をはっきり書くこと。
○面ひもは、**結び目より40cm以内**とする。(赤系の色は禁止)
- 申し込み 2020年7月15日(水)〆切 FAXは不可
・各学校で全競技取りまとめて地区中体連理事長(本部中学校)へ提出。
午後3時必着。
- 表彰 ○団体戦は、1位~3位まで表彰する。団体戦の1・2位の全選手に賞状を授与する。ただし、団体戦の参加チーム数が2チームの場合は1位、2位のチームの全選手に賞状を授与する。
○個人戦は、1位~3位まで表彰する。特に、3位決定戦は行わない。
- 参加料 ○個人 1名につき**500円(7月22日(水)監督会時に納入)**
- その他 ○参加校は紅白の目印を準備すること。
○大会当日にオーダー用紙とオーダー表示用紙を提出。

第 4 7 回 国頭地区中学校剣道競技大会 細則

(新型コロナウイルス感染拡大防止対策による夏季総体(剣道)の対応について)

- 1) 選手、監督、コーチ、役員、審判員は、風邪気味又は 37, 5 度以上の場合、参加を不可とする。
(大会本部でも準備するが学校単位でもマスク、アルコール等各学校でも準備すること)
- 2) 会場に入る前に検温を行う。(37.5 度以上の発熱の場合は、出場を辞退してもらう)
- 3) 無観客で行う。会場に入れるのは
 - ① 登録選手と登録外の 3 年生
 - ② 申込用紙に記載された監督などの指導者
 - ③ 写真やビデオ係として各学校 2 名以内(教師又は保護者)
 - ④ 校長・教頭

※今後の感染状況により、観戦の制限を緩和していく。(例 3 年生の保護者の観戦など)

※保護者等の入館については、監督会時に再度確認・検討する。

- 4) 試合中以外はマスクを着用すること。
(監督、コーチ、審判員、役員もマスクの着用)
- 5) 開会式、閉会式は行わない。(式典は、行わず表彰のみ行う。)
- 6) 試合前や試合後のミーティングは、可能な限り、屋外で十分な距離を取って行う。
- 7) 試合開始と試合終了のあいさつのみとし、円陣を組むなどは行わない。
- 8) 12 月の新人大会の結果でシードを決める。
- 9) 各自水筒持参(チーム内でスクイズボトルやコップでの飲み回しはしないこと。)
- 10) 体育館の窓をすべて開け、換気した中で行う。
- 11) 体育館入り口、役員席にアルコール消毒液の設置。
- 12) 使う道具(審判旗等)に関しては使用毎に消毒をして使用する。
- 13) 更衣室やトイレは少人数で時間差を設けて使用する。
- 14) 団体戦での待機は、間隔をあけて座る。

◎保護者等の応援が可能となった場合

- 1) 会場に立ち入る場合は、マスクを着用する。
- 2) 会場に消毒液を準備するが応援に来る方はできるだけ各自で準備する。
- 3) 会場内・会場周辺・トイレなど、密集・密接を避けること。
- 4) 選手への密接を避け、応援終了後は速やかに帰宅すること。
- 5) 指定された場所で応援を行う。
- 6) 保護者は、必要以上に選手との接触を避けること。